**准校長　山本　真澄**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校**  **１　安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校**  **２　教職員の役割と責任を明確にして学校組織の活性化を図り、専門性向上体制を整える学校**  **３　「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校**  **４　共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校**  ○安全で安心な学校づくりに取組むとともに、個々の生徒の「つけたい力」を実現できる取組みを推進する。  　ア　「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCAｻｲｸﾙを活用した、授業改善実践に取組む。  イ　「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの確立)に取組む。  ウ　「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ･文化・言語活動の推進)に取組む。  エ　「教育環境」(ICT関連含:ﾀﾌﾞﾚｯﾄ､楽スタ(重力軽減訓練装置)､ﾛｺﾓｰﾀｰ(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取組む。  オ　「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取組む。  **２　教職員の役割と責任を明確にして学校組織の活性化を図り、専門性向上体制を整える学校**  ○教職員の業務の可視化、効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに各教員の専門性向上に取組む。  ア　学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ＩＣＴを活用した校務の効率化・円滑化についても取組む。  イ　業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に一層取組む。  ウ　新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。  エ　全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取組む。  **３　「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校**   * 指導支援に関する情報共有や校務推進のための風通しのよい組織づくりに取組む。   　ア　首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・服務の適正維持に取組む。  イ　茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続に取組む。  ウ　ＰＴＡや関係機関等と連携し、防災マニュアル（大災害時も含む）の見直しとライフライン断絶(下校困難)時の訓練に取組む。  **４　共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校**   * 校内体制の構築と地域のセンター的機能の充実を図り、地域の学校に対し積極的な支援と連携を行う。   ア　50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール(特に「食」をトピックにした)等に積極的応募し、その広報の充実を行う。  イ　「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。  ウ　最新で適切な情報源としてのHP・ﾌﾞﾛｸﾞの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  | 【第1回　年月日】 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大  限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校 | ○安全で安心な学校づくりに取組むとともに、個々の生徒の「つけたい力」を実現できる取組みを推進する。  ア　PDCAサイクルに基づき、個々の生  徒の社会的自立をめざした授業づ  くりに取組む。  イ　「個別の指導計画」「個別の教育支  援計画」を更に有効に活用できる  システムの確立に取組む。  ウ　「新学習指導要領」に基づいた教  育課程を編成するとともに、「キャ  リア教育の充実」「自立活動の充  実」をめざす。  エ　学習環境の整備・改善、教職員の  危機管理意識を高め、不用意・不  注意な事故ゼロをめざし、安全で  安心な学校づくりに取組む。  オ　「学校における医療的ケア実施体制構築事業」を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。 | ア個々の生徒のニーズを十分に把握し、進路実現をめざすうえで  　必要な「力」をつける授業を実践する。  イ通知票と個別の指導計画の一体化における問題点を修正しなが  　ら、更に個別の教育支援計画とのリンクを明確にし、きめ細か  　な支援体制の構築を進める。  ウ新学習指導要領に基づいたシラバスを作成するとともに、各類型に応じた教育課程の整理をすすめる。また、キャリア教育、  　自立活動の位置づけを普通課程、生活課程ともに明確にする。  　また、就労希望生徒の卒業後、３年間定着率100％をめざす。  エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動  計画の推進および定期的な見直し、意識づけを進める。  オ高度医療的ケアに関する情報の収集と本校における体制づくり  　の仕上げと今後の課題について検討を更に進めていく。個々の  　マニュアル作りと合わせて、本校における高度医療的ケアに関  するマニュアルを完成させる。 | ア授業力向上の学校教育自己診断による評価肯定比率  85％以上(H30 83.8%教)【教】  イ個別の教育支援計画等の活用　学校教育自己診断による評価肯定比率  70％以上(H30 65.5%教)【教】  ウ新学習指導要領に基づく教育課程の編成　学校教育自己診断による評価肯定比率70％以上(H30 63.3%教)【教】  エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。学校教育自己診断による評価肯定比率100％【教】  オ高度医療的ケアに関する校内  　の基本的マニュアルの作成と  　校内体制の確立(2学期末) |  |
| ２　教職員の役割と責任を明確にして学校組  織の活性化を図り、専門性向上体制を整  える学校 | ○教職員の業務の可視化、効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに各教員の専門性向上に取組む。  ア　学校運営にかかわる会議をスリム  化するとともに業務の可視化を心  がけ、ＩＣＴ等を活用した校務の効  率化・円滑化を推進する。  イ　首席・指導教諭をはじめ、各教職  員の適材適所での活用と、わかりや  すい指示系統の組織づくりをめざ  す。  ウエ　授業改善のための公開授業を実  施するとともに、外部講師を招へ  いして継続的な校内研修を実施す  る。 | ア各校務分掌の業務の洗い出しと整理を進める。重複業務や係の  　統合等を進めるとともに、会議の進め方等のルールを策定して  いく。また、引き続き定時退庁の呼びかけを推進する。  イ首席の業務の更なる明確化部門制を推進し、各学部主事を中心  とした学部内業務と校務分掌における業務の平準化を図ること  で個々の教員の業務を明確にする。  ウエ2019年度2学期以降に公開授業日を設け、他校からの見学を  　募る。また、外部講師を招へいして、年間を通じて授業力向上  　に関する研修（指導助言）等を実施する。特別支援教育の特徴  　的な指導法（ムーブメント、構造化、AAC等）の研究を進める。 | ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保　学校教育自己診断評価肯定比率75％以上(H30 70.5%教)【教】  イわかりやすい業務分担  学校教育自己診断による評価肯定比率45％以上(H30 37.1%教)【教】  ウエ授業力の向上  学校教育自己診断による評価肯定比率70％以上(H30 58.3%教)【教】 |  |
| ３　「例年通り」から脱却し風通しの良い組織を  めざし、次世代育成を積極的に実践する学校 | ○指導支援に関する情報共有や校務推進のための風通しのよい組織づくりに取組む。  ア　初めて支援教育に携わる教員や経  験の少ない教員へのサポート体制  の充実を図るとともに、学校全体  の専門性向上をめざす。  イ　個々の教職員が公務員としての自  覚を持って行動できる体制づくり  のために、服務（通勤・出張・研  修）の適正維持に取組む。  ウ　ＰＴＡや関係機関等と連携し、防  災計画（BCPも含む）の継続的な見直しと大規模災害(下校困難)時  の研修、訓練に取組む。 | ア初任期等の教員への定期的な校内研修の実施と研究授業の実施  　アドバンスト研修、10年経験者研修受講者の公開授業の推進と  　研究協議への参加の促進（経験の少ない教員中心に）。高等部の  　各課程における専門性の向上（普通課程…自立活動等、生活課  　程…コミュニケーション等、共通…アセスメント、SST等）  イ年度当初における教職員の服務についての確認事項をはじめ、  　定期的な通勤方法の確認、出張等の適正な処理の注意喚起を  　行い、個々の教職員の服務に関する意識を高める。  ウこれまで経験した災害における対応を教訓に、より安全で安心な防災・減災ができるように、PTA・地域と連携を進め、避難場所確保や引継ぎについて対応を進める。また、高等部自力通学  　生徒の安否確認の方法を確実化していく。 | ア専門性の向上　学校教育自己診断による評価肯定比率65％以上(H30 58.3%教)【教】  校内研修３回以上  公開・研究授業１０回以上  イ通勤状況調査（年２回）  　服務に関する注意喚起（随時）  ウ防災意識について　学校教育  自己診断による評価肯定比率  70％以上(H30 66.2%教  【教・保】  年度中、マニュアル更新 |  |
| ４　共生社会の形成に向け、保護者・地域か  ら信頼され期待される学校 | ○校内体制の構築と地域のセンター的機能の充実を図り、地域の学校に対し積極的な支援と連携を行う。  ア　最新で適切な情報源としての学校  HP・ブログの更新や、学校の取組  みに関する広報を、積極的・継続  的に行う。  イ　地域連携推進事業三島ブロック幹  事校として、積極的に情報を発信  し、地域の特別支援教育力の向上  をめざす。  ウ　地域や保護者と双方向の連携を行  い、地域における居場所づくりを  生徒が在校中から支援していく。 | ア学校HPの定期的な更新や学校ブログへの情報UPの頻度を上げ  　ることにより、学校の取組みを外部に周知していく。また、他学部の取組みを保護者に周知していくことにより、全校的な様  子を広報する。  イ三島ブロック内におけるリーディングスタッフ、リーディング  　チームの研修をバックアップし、訪問相談がよりスムーズに  　実施できる体制を地域に提言していく。また、茨木地区の自主  　研修会を継続して実施していく。  ウ関係機関と連携しながら、居住地区における社会資源に関して  早い段階から、本人、保護者に情報提供していく。また、余暇活動の充実を図るために、ボッチャ、サッカー、バスケットボール  等の取組みを更に拡充させる（高等部）。 | ア学校HP等広報活動について  学校教育自己診断による評価  肯定比率80％(H30 38.4%教)  【教・保】  児童生徒ブログ、月10回  イ地域支援事業に関する研修会  への本校からの新規参加３名  以上  ウ課外活動の参加者10％増  (H30 15名) |  |